

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
【I 理念に基づく運営】					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	家庭的な雰囲気の中で利用者の皆様が安心して毎日を過ごすことができるようお手伝いをします。また、事業所を交流の場として地域に提供することによって、地域の中の一員としての自覚を持つことができるよう支援します。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日の生活の中で、管理者、職員が当事業所の理念である家庭的な雰囲気を大切にすることを共に意識しながら、利用者のケアに反映されるよう努めています。毎月、また必要時カンファレンスを行い、より良いサービスを提供できるよう努力します。		
3	—	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	地域密着型サービス運営推進会議や、家族、親戚、また見学者等の来訪時に実際に事業所での様子を見て頂くことによって当事業所の理念を理解して頂けるよう働きかけています。		
2. 地域との支え合い					
4	—	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	隣近所の方々には日頃から挨拶等の言葉かけを大切にしています。事業所での行事等のイベントがあるときは参加して頂けるよう声かけをします。		
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	当事業所が地域住民の一員として地域活動に参加できるよう自治会長、民生委員の協力のもと、出来ることをしていきたいと思っています。		
6	—	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事務所々職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の高齢者の方々（特に独居老人）に、いこいの場として事業所を提供し、少しでも交流の和を広げ、困った時等にお手伝いできるよう努めていきたい。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の内容を職員に説明し、評価で指摘、指導をされた課題について話し合い、今後のサービスの向上に繋げていきたい。		
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ほぼ、2～3月毎にテーマを決め、運営推進会議を開いています。事業所の報告だけではなく、行政機関等の意見、要望を受け、今後の事業所の運営に反映するよう努めています。		
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村と積極的に情報交換を行い、また、問題解決に向けた相談、助言を受け、事業所の運営や現場のサービスの向上を目指しています。		
10	7	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	運営推進会議において「高齢者の暮らしを支える成年後見制度について」出前講座を開催しました。利用者のご家族にも多数参加して頂きました。		
11	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	当事業所では、開設して3年経過しましたが、いまだかつて虐待行為そのものは一度もありませんが、虐待についての対処方法を職員全員で話し合い、取り組んでいきたい。		
4. 理念を実践するための体制					
12	—	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に際しては、利用者、ご家族に十分理解が得られるように、わかりやすく説明をするよう心がけています。特に、当事業所で出来ること、出来ないことを明確に説明し、誤解のないようにします。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
13	—	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者との会話の中で、利用者の思い、不満、訴えたい要望を汲み取り、それを職員間で話し合い、今後の運営に反映させていきたい。		
14	8	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に一回は家族と話す機会を設けるようにし、最近の利用者の様子や身体状況について報告をします。疾患については主治医から説明をして頂くこともあります。急を要する場合は直接、連絡します。遠方にいるご家族の方には時々、利用者と電話で話して頂いています。		
15	9	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所入り口に意見箱を設置していますが、なかなか利用されていません。できるだけ、管理者、職員が家族の意見、不満、苦情を聴く機会を持つようにしています。管理者はご家族と対話をする時間を持つように努めています。		
16	—	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回は職員会議を開いています。業務内容の見直しや行事等について話し合い、いろいろな意見を出し合いながら、事業所運営、サービスの質の向上に努めています。		
17	—	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者の身体状況の変化や新規利用者を受け入れる場合においては、職員の増員をし、十分な対応が出来るようにします。また、職員の急病等の休みがでた場合に対応できる職員を確保するよう努力しています。夜勤帯での急な対応については連絡網を作成しており、すぐに出勤できるようにしています。		
18	10	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者には不安を与えないよう、職員の交代には配慮しています。できるだけ、職員交代の引き継ぎ期間を十分にとるようにしています。利用者一人ひとりに、新人職員の紹介をし、早く慣れて頂くようにします。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
5. 人材の育成と支援					
19	11	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用にあたっては、性別、年齢等は関係なくやる気のある人を採用します。また、経験にとらわれず、初めての職員には無理なく業務に慣れるよう職員リーダーを中心に指導するようにしています。		
20	12	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権教育、啓発活動に関する研修等の参加がなされていないのが現状です。	○	勤務シフト上、なかなか研修参加ができないが、できるだけ多くの職員に研修や勉強会に参加できるようにしていきたい。また、事業所内で勉強会を開いていきたい。
21	13	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者、及び有資格者が研修を受けることが多く、その都度、研修内容を分かりやすくまとめ、他の職員にも勉強するよう指導しています。また、介護関係の本や、簡単な医学書等の専門書も多く備えるようにしています。		
22	14	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム部会に加入し、できるだけ参加し、情報交換を行っている。最近では、市町村の長寿介護課が中心となり、地域密着型サービス事業所交流会が発足され、事例発表等の勉強会に参加しています。		
23	—	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員がゆっくりと休めるよう、スタッフルームには畳を敷き、身体を横に出来るようにしています。また、管理者は職員の相談、助言ができるよう、日頃からコミュニケーションを取るよう心がけています。		
24	—	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	年に1回、職員の健康診断を実施し、健康管理に配慮しています。代表者（医師）も職員の健康についての相談、助言を行っています。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
25	—	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前面談で利用者の生活状況等を十分把握し、できるだけ体験入所を勧めています。入所にあたっての利用者の心身の状況や不安などを軽減できるよう、職員にも情報を共有化し、早く馴染みの場となるよう努めます。		
26	—	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族の悩み、不安、焦り等の気持ちを受け、家族の求めている（ニーズ）を理解し、事業所全体でどのような対応が望ましいのか話し合う機会を十分持つようにしています。		
27	—	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時に、ご本人、家族の思いや現状を把握し、今、必要としているニーズを見極め、それに合った支援の提案を行いながら、信頼関係を築くようにしています。		
28	15	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ご本人が安心できるよう、家族や知人等の協力をお願いしています。また、職員にもできるだけ個別対応をするよう指導しています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
29	16	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員も利用者も家族の一員として毎日を共に支えあって生活しています。その生活において一方的な関係にならないよう常に、職員全体で話し合い、日々努力しています。		
30	—	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	当事業所では、職員と家族は利用者の生活を共に支援する対等の関係を築きながら、利用者が安心し、穏やかに過ごすことが出来るよう、事業所での様子や変化等を細かく報告するように努めています。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
31	—	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	当事業所では利用者と家族のよりよい関係が維持できるよう、手紙、電話、お便り、写真等を送ります。また、遠方にご家族にはできるだけ連絡を取るようになっています。		
32	—	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者によっては交友関係の全くない方もいます。そういう場合は在宅生活を送っていたときにお世話になった民生委員や近隣の方に時々来て頂けるようこちらから連絡を取るようになっています。		
33	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支えあえるように努めている	利用者同士の関係については職員間で常に情報を交換し、把握に努める。当事業所では3時のおやつ時間を利用者、職員皆で一緒に過ごすようになっています。また、利用者同士の関わりを考慮して座席を決めています。		
34	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	在宅生活に戻られたり、入院したりした利用者とその家族に対して、事業所で出来ることを積極的に取り組んでいきたい。（行事等の参加を呼びかけている）		
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
1. 一人ひとりの把握					
35	17	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個人個人の希望や意向に添うように努力はしたいが、内容によってはできること、できないことがあり、その場合は利用者、家族とよく話し合い、家族の協力を得ながら取り組みたい。		
36	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	まず、ご本人自身との会話の中で生い立ちから学生時代、仕事内容、結婚生活、家族のこと等を把握するようにし、家族等からの情報とあわせて今までどのように暮らしてきたか時間をかけて把握するように努めている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
37	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者一人ひとりの日課表を作成し、職員全員で共有することでサービスの向上に繋がっている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
38	18	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者一人ひとりの精神、身体状況を把握し、その利用者の持てる能力を十分に引き出せるようなケアをサービス担当者会議で話し合い、また、家族の意見も取り入れ介護計画に反映していくように努めている。		
39	19	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間に沿って見直しをすると共に利用者の状態の変化等が生じた場合には、その都度、カンファレンスを開き、現状に合ったケアの対策を立て職員全員で取り組みます。		
40	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別用の記録として、健康状態を把握するチェックシート、一日の記録、サービス計画書、担当者会議記録、モニタリングやフェイスシート等の情報を共有し、サービスの向上に活かしています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
41	20	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	当事業所では、母体が医療機関であるため、利用者、家族にとって負担となる受診や入院の回避、早期退院の受け入れ、または急な医療処置等のサービスを提供できます。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
42	—	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	利用者が安心して地域で暮らすことができるよう、自治会長、民生委員、近隣の方々に気軽に事業所に入出りできるよう普段から交流を持つようにしています。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
43	—	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	利用者の状況によってはリハビリ訓練のための送迎の支援や、訪問針、灸マッサージの利用、ボランティアによる理美容サービスの提供をしています。		
44	—	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域密着型サービス運営推進会議において、情報交換や支援に関する相談、助言を頂き、事業所の運営に活用しています。		
45	21	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当事業所は母体が医療機関ではありませんが、利用者、家族の希望する受診には柔軟に対応するようにしています。急な受診にはご家族にも協力して頂いています。		
46	—	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	当事業所は母体が医療機関であるため、現在では、代表者である院長先生に診療して頂いています。常に先生と情報交換をし、診断情報、治療方針、認知症についての説明や助言を頂いています。		
47	—	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	職員として看護師を配置し、常に利用者の健康状態に留意しています。急変に対していつでも対応できるようにしています。家族からの相談や助言もしています。		
48	—	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院を必要とする場合、利用者の支援方法等に関する情報を医療機関に提出し、利用者、家族が安心して入院できるようにします。また、入院中も利用者、家族との連携を持ち早期退院にむけた支援をします。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
49	22	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者、家族の意思を確認する。状況に応じて、当事業所でも対応出来ること、出来ない事を主治医、管理者が利用者、家族に説明し、安心と納得が得られるよう話し合いをします。		
50	—	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	利用者、家族の気持ちを大切に、安心して納得がいく最期を迎えられるよう支援する。 (現在、当事業所では、まだ最期を迎えられた利用者はいません。)		
51	—	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	利用者の不安を最小限に抑える為にも、アセスメント、ケアプラン、支援内容や注意が必要なことを十分に情報提供できるようにします。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
52	23	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員一人ひとりに個人情報に関する指導を行うとともに、利用者に対して常に尊厳の気持ちを忘れず暖かい言葉かけをするよう指導しています。		
53	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者と一緒に過ごす時間を多く持つことにより、利用者の希望、関心、嗜好を把握し、利用者自身が自分の思いを出すことができるよう支援する。		
54	24	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事業所では基本的な一日の流れがあるが、利用者の状態によっては柔軟な対応をしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
55	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	3か月に1度、ボランティアのカットを利用しています。また、希望により白髪染めも職員でしています。パーマ等の長時間を有する事はご家族に協力して頂く場合もあります。		
56	25	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の嗜好に合わせて柔軟な対応をしています。また、利用者の能力に合わせて、簡単な野菜の皮むきなどをして頂きます。		
57	—	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	利用者が自由に食べたり、飲んだりできるよう利用者専用の冷蔵庫を用意し、事業所側で管理しています。利用者によっては病気のため自由に食べることができない方もいます。また、当事業所では防災を重視し、喫煙は禁止しています。		
58	—	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を活用し、利用者の排泄パターンを知ることにより、いつも清潔で気持ちよく過ごせるよう支援しています。オムツを使用している方もトイレで排泄できるように誘導、介助します。		
59	26	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	当事業所では、介助の必要な利用者が多く、一人ひとりの希望に合わせて入浴する事は難しいですが、体調に合わせて入浴日を変更したり、その都度、柔軟な対応をするようにしている。		
60	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	利用者の中には昼夜逆転している方もいて他の利用者の睡眠を妨げているため、日中の活動を促し、適度な運動や、昼寝の時間も長くないように気をつけています。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
61	27	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	当事業所では、利用者の能力に合わせてお手伝い係りを決め、職員と一緒にしています。		
62	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	当事業所では、原則として利用者はお金を持たないことにしていますが、買物などのお出かけ行事には、家族から預かり、利用者が買い物を楽しむことが出来るよう、職員がお手伝いしています。		
63	28	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	週2回、(水、土)にレクリエーションの日として天候、利用者の体調を考慮し、散歩などの外出をしています。		
64	—	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	年間行事計画の中でバスを貸し切り、事業所全体で出かけます。場所は利用者みんなの意見で決めたいと思います。ご家族にも協力して頂いています。		
65	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状、暑中見舞、誕生会や行事の写真などを利用者自身で書ける方には書いて頂き、また、職員の方で代筆をしてご家族や知人の方に送っています。利用者の希望により電話等の支援もしています。		
66	—	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるように工夫している	いつでも訪ねて来て頂けるよう、ご家族、親戚、友人の方々に声かけをしています。また、ゆっくり過ごして頂けるよう、居室空間を整えています。お茶、お菓子も提供しています。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(4) 安心と安全を支える支援					
67	—	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしなければいけないケースは今のところありません。		
68	29	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	当事業所では、日中、玄関に鍵をかけることはしていませんが、今後、利用者の状態により、必要時は鍵をかけることもあります。		
69	—	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常に職員は利用者と同じ空間で過ごし、見守り、介助をしています。夜間帯では、1時間毎に巡回し、利用者の様子を確認しています。		
70	—	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意の必要な物は必要時以外は手の届かないところにおいているが、使用する場合はスタッフの見守りの中で使用するようになっている。		
71	—	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	利用者一人ひとりの状況から、想定される事故等を未然に防ぐためにも、常に見守り、確認をしている。どんな些細なことも管理者に報告し、職員全員で対策を検討し、事故のないようにしている。		
72	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	職員会議や、勉強会で職員全員に事故発生時の対応方法や、応急処置等の指導を行うと共に事業所独自の連絡網にて速やかに対応できるようにしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
73	30	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、消防署から、防災訓練の指導、消火器の実施訓練を行い、防災についての意識を深めている。		
74	—	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	事業所内での生活状況を話し、起こり得るリスクを家族に説明。本人の希望や家族の希望を伺い、なるべく本人の負担にならないような対応策をとっている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
75	—	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	利用者一人ひとりの日頃からの身体状況を把握し、少しでも体調の変化が見られたら、まず、バイタルチェックを行い、場合によっては医療機関に受診させる。		
76	—	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬剤情報ファイルを作成し、職員が内容を把握できるようにしている。服薬は確認したら、チェック表に記入する。また、薬の内容に変更がある場合は申し送り簿に記入し、職員全員に確認するよう指導している。		
77	—	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日の排便をチェックし、個々の状態に合わせて食事の工夫、適度な運動を心がけているが、場合によっては主治医に相談し、内服薬で対応している。		
78	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、寝る前には口腔ケアの声かけ、見守り、介助をしている。また、義歯の定期的な消毒、洗浄を行っている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
79	31	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量を一人ひとりの状態・病状によって変え、飲み込みがうまくいかない利用者にはトロミをつける等の工夫をしている。本人の嗜好にあわせて、苦手な物は他の物で補うようにしている。		
80	—	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症対策の勉強会を実施し、職員に指導しています。時期的に流行するインフルエンザには医師の指示により、早めにワクチン接種をしたり、ノロウイルス感染症対策として、共有場所等には消毒薬で掃除をしています。一人でも感染者が出ないように注意しています。		
81	—	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食品の鮮度や賞味期限の確認を毎日行うと共に冷蔵庫をはじめ、水周りや、調理器具等の衛生管理をしています。また、生ゴミの処理にも配慮し、ゴキブリ等が出ないように常に掃除に気を使っています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
82	—	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	駐車場から玄関入り口までのアプローチには手すりを設置し、広く安全に利用できるよう配慮しています。また、雨の日の外出には濡れないよう屋根があり、利用者もとても助かっています。		
83	32	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有場所には、季節を感じる事が出来るよう花や節句の置物を置いたり、また、利用者の作品、写真等も飾っています。特にトイレには、常に清潔で尿臭がしないよう掃除を徹底しています。		
84	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはゆっくりくつろげるソファもあり、和室では昼寝ができるようベットも用意しています。2階居室廊下の奥にもソファを置き、利用者同士でおしゃべりできる空間を作っています。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
85	33	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	その人らしい生活空間を作り、安心して毎日を過ごすことができるよう馴染みの家具や電化製品を自由に置いて頂いています。		
86	—	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	空気の入れ替えや、居室の温度調節は時間を決めて職員で管理しています。特に冷暖房を使用する時期には、こまめにフィルターの掃除をしています。また、トイレからの悪臭にも注意しています。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
87	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下・居室内に手すりを設置している。バリアフリーにしている。		
88	—	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	ダイニングテーブルのそれぞれの席や、使用するコップ等に名前を貼っている。		
89	—	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	事業所南側には小さいながらも庭と畑があり、花を植えたり、野菜を作ったりして楽しんでいます。また、玄関前のスペースには屋根があり、そこでお茶を飲んだり、バーベキューをしています。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目				
90	—	○職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
91	—	○利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
92	—	○利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	—	○利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	—	○利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	—	○利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	—	○利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
97	—	○職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
98	—	○通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
99	—	○運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
100	—	○職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
101	—	○職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
102	—	○職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

・当ホームでは家族的な雰囲気大切にしており、利用者一人一人が安心して、また自立した生活を送れるよう管理者はじめ介護スタッフ全員で努力しています。
母体が医療機関であるため、急変時にもすぐ対応することもでき、また利用者にとって負担となる医療機関の受診や入院の回避・医療処置等のサービスを提供する事ができますので、利用者本人、ご家族も安心していただけると思います。